

企業の在り方が大きく変化する中、ますます「これまで通り」が通用しない時代が来る。特に人手不足が深刻化する中小企業では自社でカバーできない技術や発想を外部に委託する機会は増えていくだろう。本連載ではコンサル国家資格である中小企業診断士を持つ、柚木正人氏（三枝国際特許事務所所属）に変化に対応する柔軟な考え方や方法について、理論的視点に基づき観点を聞いた。

価値提供の「思

考

第1回 中小企業診断士の活用

○：近年、日本でも全ツクインカム（最低所得国民に毎月一定の給付金 補償）が議論され始め不測の事態を提供する制度「ベーシックインカム」がある。これは、企業の

是非や可否はともかく、これからの10年がドラスティックな変化の時代に注いでいる。一方、中小なることは間違いない。しかし、こ

う表現を使い始め、人材獲得・育成に相当な力を要がある。企業は優れた力量の「個」のために「今」必要なことを改めて認識する必要がある。例え、特定の地域に店舗を構える飲食店と大

この「変化」はリーマンショック

行き止まりに光を当てて

専門家取り入れ課題解決へ

的」とは、売上げの増加や従業員のモチベーション向上などではなく、社への価値提供の持続であり、組織の存続ということを決に具体的に当てはめることが必要だ。中小企業診断士を活用する最大のメリットといえる。

クのような不測の事態を指すので在り方や働はなく、想定し準備できな企業は永続できない。経営の「究極の目

中小企業診断士が目的が抱える問の持つ専門性×診断士の因は、硬直多様性」を組み合わせる。企業が気づかずの課題解決に導く

き方が大きな変化の指し示唆 最近では著名な大企業まで「生き残り」とい

とは何か。それは、適切な規模なマーケティングを行う飲料メーカーで組み合わせが企業にとっての組織文化は当事者が思う以上、外部の専門家を取り入れることで解決する課題は多い。

三枝国際特許事務所

中小企業診断士

柚木 正人氏

経営理論にない。「便利・良い考え」はフレームワークから同じことをすれ

はフレームワークから同じことをすれ